令和２年度　千曲市健康づくり推進協議会　会議録

日　時　　令和２年 10 月８日（木）　13：30～15：00
会　場　　千曲市役所　２階　集団指導室
出席委員　11 名
欠席委員　２名
事務局　　６名　　健康福祉部長　　健康推進課長　　保健事業推進係長
　　予防保健係長　健康増進係長兼母子保健係長　健康増進係主査

＜開会の前に机上に委嘱書を配布＞

会議日程

１　開会　　午後１時 30 分

２　あいさつ　健康福祉部長

３　自己紹介　各委員・事務局

健康推進課長　＜千曲市健康づくり推進協議会設置要綱第６条２項より会議が成立していることを報告＞

４　会議事項
（１）　正副会長選出
　　会長　　髙澤　尚能
　　副会長　濵田　弘子
　　副会長　夏目　正江

（２）　令和元年度保健事業報告、令和２年度保健事業進捗状況について
事務局から令和元年度保健事業報告、令和２年度保健事業進捗状況を説明

意見１）　＜本日欠席されている委員よりいただいた意見を報告＞
今年度より良い歯を守る健診事業において、北信地区では最初に 20 歳 30 歳の健診が開始されました。ご尽力いただきました市関係等皆様には感謝申し上げます。これで乳幼児から 20 歳から 70 歳まで、10 年ごとではありますが切れ目のない歯科健診システムが構築できました。

（３）第３次千曲市食育推進計画（素案）について

事務局から第３次千曲市食育推進計画（素案）について説明

質問１）　お子さんに対して、痩せとか肥満というのは、個々に把握されているのでしょうか？

意見２）　健康診断の結果で、養護教諭の方で把握して、肥満の子には肥満の指導をしています。

質問２）　養護教諭さんの方から、本人やご家庭にご指導いただいているということですね？

意見３）　指導が必要なご家庭については連絡をして取り組んでいます。

質問３）　高齢者の男性の肥満が増えているということと、子供の貧血の状況がよくないということについて、その原因と思われることは先生方の中で予想されるようなことはありますでしょか？

回答：　特定健診は 74 歳までになっております。後期高齢者で健診受診の方も特定健診について把握できています。今後、高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業が今年度から始まっていますので、そこで皆さんへの支援をしていく予定です。

意見４）　高齢者の肥満に関しては、私の独眼ですが、独居世帯が増えています。食事の偏りとか、資料にもコンビニが増えていますとありますので、簡単に脂質が多い食事が手に入ります。そのため、肥満になってしまっている方が増えているのではないかと推測されます。食生活ではないでしょうか。家族の人数も少なくなっているので、止める方もいない。なかなか難しいところじゃないでしょうか。

意見５）　食育推進計画（素案）第一章策定にあたっての中程に、「野菜の摂取不足」という記載があります。高齢者の方々は野菜しか食べないという人もます。そうすると、栄養不足になっていきます。また、昨今の野菜そのものの栄養価は 10 年前と比べてもかなり低くなっているにも関わらず、野菜の量は 10 年前とあまり変わらない。こうした中で、最新のデータに基づく必要な野菜量と、それからバランスよく食べるということが、私たちにはわかりません。何をバランスよく食べていいのか。それをきちんと明確に示していただくということが一つ必要なんじゃないかなと思います。また、食料輸入率も 30 数%。千曲市ですか？全国ですか？全国でですよね。ここをどうやっていくか。不安な野菜をどうやっていくか。ヘルシーと言いつつ、輸入大豆の加工品をたくさん食べて本当に健康に良いのだろうかということをもう少し具体的に示していただくと啓蒙活動につながるのではないかと思っています。輸入大豆は、遺伝子組み換えがどうなのだろうと言われている中で、国産

の大豆加工品がどのくらいのパーセンテージで、輸入品の加工大豆品がどのくらいあるのかということを把握しておく。それを必要としている人も中にはいるかもしれないなと思っています。

意見６）　食事大事だと思います。高齢者のお昼は、若い人、子どもが仕事へいくなどで、簡単なものだと思います。

回答：　高齢者の方の食事については、本当に重要だと思っております。その家庭によって、野菜ばかりになってしまう家庭もあれば、コンビニに行って、揚げ物を買って簡単に済ます方も多くなっております。今年度から実施の高齢者の保健事業につきましては、運動不足・栄養の偏りといったところからも、皆さんが選択できるような事業等を考えていかなければいけないと思います。コンビニで買えるけれども、バランスよく何を買ったら良いかということも考えていただけるように支援をしていきたいと考えております。また、輸入大豆についてですが、現在、食育計画を策定している段階です。農林課や、廃棄物対策課等の職員も参画しますので、ご意見を反映させていただき策定していきたいと思います。

意見７）　みなさん遺伝子組み換えの誤解があるのですけれども。遺伝子組み換えって悪いことではないです。

　そのあたりの認識がマスコミを中心として、正しいことをしっかり伝えておりません。結局のところ、大豆というのは、たんぱく質が主ですが、お腹の中で全部アミノ酸に分解されますので、遺伝子組み換えでもなんでも結局消化吸収される時に、同じ物になります。遺伝子組み換えをどうしてするかというと、農薬のいらない、害虫に強いとか利点を伸ばす遺伝子組み換えをして、農薬をできるだけ使わないとか、収量が増えることをねらって遺伝子組み換えをしていることです。日本では作れない、より安価な大豆を安定して供給するために、遺伝子組み換えの大豆を作っていると認識をしていただければ、私は良いと思っているのですが、なかなか日本ではそういう認識が進んではいかないので、国の説明不足ではないかなと非常に心配をしているところです。

意見８）　国の方でも、遺伝子組み換えは安全であるということを宣言していることはよく存じております。ただ、外に目を向けた時に、遺伝子組み換えを絶対に認めない、遺伝子組み換えの物を家畜の餌にさえしないという国も多々あるわけです。遺伝子組み換えの大豆、とうもろこし、その他諸々が、農薬がいらない。もしくは手間がかからない、安価に手に入るというならば、それらの種子を開発したヴァイエルンですとか、ネスレとか、そういう企業にたくさんお金を払うようになっていくのではないかという意見もあります。国の言っていることと、世界から流れてくる情報と、いろいろあります。ただ、安全だ！安くて良いものだ！本当にそうなのかという事を不安に思う気持ち、これをただ、安全だ安価だからという一言で片づけてほしくないというのが消費者の心理ではないかと思います。

意見９）　私ども６つの公民館で健康に関しては公民館の柱の一つとして、それぞれ運動系は熱心にやっており、ご参加される方が大変多いです。しかし、食育については、公民館は、料理教室的なものはあるのですが、高齢者の方に特化した一人暮らしの男性の高齢者の食をどのようにフォローしていくのかについては、今まで欠けていた部分があるなと反省をしております。戸倉公民館では、親子で料理教室という形で、子どもの食育についてやり始めたのですが、「食育推進計画（素案）」P22～P23 の表でいう壮年期の部分で、公民館が出て来てないものですから、ここは反省材料とします。公民館といたしましては、特に男性の高齢者の方の食事、また男性はなかなか公民館に来てくれませんので、一人暮らしの男性の食をどうするかということについて、今後ご指導いただきながら頑張っていきたいと思っております。

意見 10）　高齢の男性の料理教室という話があったので、「食育推進計画（素案）」P22～P23 の食生活改善推進協議会の欄のところに男性の料理教室を壮年期のところに載せています。食生活改善推進協議会では、男性の料理教室を、新型コロナウイルス感染症の関係で今年は何一つ出来ていませんが、毎年行っております。30 名くらいの方に来ていただいていますが、より必要な方に来ていただきたいと私たちも悩んでいますので、今、公民館の担当の方からお話がありましたので、一緒に考えていけたらなと思いました。

意見 11）　よろしくお願いします。

意見 12）　子どもが朝、誰と食べているか、一人で食べているのですが、部活の朝練で学校に行くのが早く、お母さんは起きたらすぐ食べさせないといけないので、自分は食べられない。菓子パンとか、簡単に子どもに食べさせています。そのため、家族一緒に時間を合わせて食べるのはちょっと無理だなと思います。もし、目標が朝ではなくて、夜は家族で食べる。または週末はお父さんも一緒に食べるとか。これは子どもだけではなく、高齢者も一緒だと思います。一人で食べるのはさみしい。一人はおいしくありません。高齢者も、一週間に 2、3 回でも、一緒に作って楽しく食べると食欲が出ます。

５　その他

新型コロナウイルス感染症の現状について

事務局から新型コロナウイルス感染症の現状について説明

質問 13）　施設には、面会の中止や、制限があります。利用者さんも精神的に不安定になることがあります。利用者さんもイライラして暴言や暴力になることもあります。施設に面会が出来るように指導できませんか。

回答：　施設では国や県の方針になります。市としてはご意見をお聞きしておきます。

意見 13)　（県保健所の立場で）今、状況としてはレベル 1 に引き下げたが、帰国者なども戻ってきており、まだまだ予断を許さない状況にあります。どこで何が起こるかわからない現状と思います。

病院の中でも、面会制限を設けていなければ、誰から持ち込まれるかもわかりません。また、その中には病気の末期の方や、余病があるとなかなか回復していかない方がいます。そのため、「できるだけ危険因子を避けていきたい」というのが県や国の考えているところです。面会制限の中で不安になっている方が多いというのは NHK のニュースでもやっていました。何か解決策はないのかということになりますと、実際、ある病院でやっている面会の方法を確認しましたが、スマートホンによるテレビ電話を使って 1 台を患者さんの所、1 台をご家族の所で面会を行っていました。何かしら利用者の要望を伝えていただいくことで、施設でできる工夫を広げていただければと思います。メンタルヘルスのために面会を「どうぞ」ということはまだ言えません。高齢者の方の回復等の悪さを実感していますので、ご協力をいただければと思います。

また、保健所で、コロナウイルス感染症についての相談を受けていて、4 月当初は、人を非難（中傷）する電話が多かったのですが、千曲市で陽性者が出た時には、患者等への誹謗中傷等の電話がほとんどなかったことをご報告いたします。地域でだれがなってもおかしくない。一番やらないといけないのは広げないこと（拡大防止）です。その人を起点に、どうそこで収束させるかが大事であって、攻めることで無くなっていく訳ではありません。感染者に調査をすると、攻められると思うから、本当のことを言わなくなり、嘘をつく人が増えてしまう。そうすると、濃厚接触者を探し出せなくなってしまい、あちこちで陽性者が出てしまう。陽性者には、責めないから、あなたの周りで健康を守ってほしい人を教えてほしい。ということを、地区全体で広げていってほしいです。今回は、千曲市さんにはご協力いただいたこと、啓発活動のこと、健康教育が大事なんだということを実践していただいたので、助かったと思っております。

６　閉会

午後２時５０分